

TSUDA TODAY

No. 132

津田塾大学

November 2024



■ 本学に若い記番号の新五千円紙幣が贈呈されました

2024年7月3日に新しい日本銀行券が発行され、同日午後、日本銀行本店にて新紙幣贈呈式が行われました。本学からは高橋裕子学長が出席し、植田和男日本銀行総裁より若い記番号の新五千円紙幣「AA000003AA」が贈呈されました。これは、新紙幣の広報の一環として、紙幣に使われた肖像画や図柄に関連する企業、団体に若い記番号の紙幣を贈呈し、広く公開するというもので、新五千円紙幣の一番券は日本銀行貨幣博物館、二番券は津田梅子の生誕地がある新宿区に寄贈されました。本学に寄贈された紙幣は、小平キャンパスの津田梅子資料室にて展示されています。



写真右より 日本銀行植田和男総裁、本学高橋裕子学長



津田梅子資料室に展示されている贈呈された新五千円紙幣

■ 新紙幣発行記念イベント ～女性アスリート達とつなぐ未来へのバトン～を開催

津田梅子の肖像が採用された新紙幣の発行日である2024年7月3日、千駄ヶ谷キャンパスに隣接する東京体育館にて、東京都スポーツ文化事業団と津田塾大学の共催で「新紙幣発行記念イベント～女性アスリート達とつなぐ未来へのバトン～」が開催されました。

本イベントでは、世界を舞台に挑戦を続けた女性アスリートとして、元サッカー日本代表の岩淵真奈氏と元レスリング日本代表の登坂絵莉氏をゲストに迎え、日本初的女子留学生として海外で学びを得て、後進の女性リーダーにバトンをつないだ津田梅子の功績等を振り返りながら、スポーツをはじめとする各分野で更に女性が活躍していくために受け継ぎたい“未来へのバトン”を考えるトークショーを行いました。

本学からは、高橋裕子学長と国際関係学科のMaja Sori Doval准教授がトークショーに登壇し、高橋学長からは津田梅子の生涯やその功績について、Sori Doval准教授からは柔道の事例から見た日本のスポーツ界におけるジェンダーギャップについて紹介されました。ゲストのお二人からは、国際的な舞台での経験や、スポーツ界で女性がさらに挑戦していくための課題などが語られました。

トークショーの後は陸上トラックに舞台を移し、五千円札にちなんだ「5000m リレー」が行われ、学生・教員・ゲストの総勢50名



で「バトン」をつなぎました。リレーは2チームに分かれ、高橋学長をはじめとした関係教職員と学生が五千円札のタオルを掲げ、大きな声援を送っていました。最終走者は、ゲストである岩淵真奈氏と登坂絵莉氏のお二人で、連携推進センター職員による緻密な走者順の設定により、ほぼ同時にゴールテープを切るという劇的な幕切れとなりました。



新札発行記念特別対談「津田梅子研究おぼれ話」 (津田塾大学創立125周年記念/津田梅子生誕160年記念事業)

7月3日に新紙幣が発行され、本学の創立者津田梅子が新しい五千円札の顔となりました。この新札の発行を記念して、7月17日、小平キャンパス津田梅子交流館岡島記念チャペルにて、津田梅子について長年研究をされてきた、科学史家で『津田梅子—科学への道、大学の夢』(東京大学出版会、毎日出版文化賞、日本科学史学会特別賞)の著者・古川 安(ふるかわ やす)先生と、ライフワークとして津田梅子に焦点を当てて研究をし、津田梅子の書簡に40年間向き合ってきた本学高橋裕子学長による対談を行いました。

両者の研究を始めることになったきっかけや調査・研究を通して気づいたこと、その研究が自分の人生に与えた影響などが語られました。また古川先生と高橋学長の研究者としての出会いから、互いの研究や足跡から影響を受けたことなど、さまざまなエピソードが紹介されました。参加者からはユニークな質問もあり、笑いと共感に満ちた会となりました。



新5000円札記念シンポジウムを開催

9月14日、千駄ヶ谷キャンパス広瀬記念ホールにて、新5000円札記念シンポジウム「津田梅子の創造と挑戦、そして明日へ～未来を切り拓く女性の道標(みちしるべ)～」がハイブリッドで開催されました。会場参加は満員御礼、オリジナルグッズの販売也大盛況で、会場限定販売のマグカップやクッキー、5000円の福袋2種などが完売しました。参加者アンケートによると「満足」、「大満足」

の合計が91%、自由記述欄にも肯定的なコメントをたくさんいただきました。ご協力、ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。アンケート結果の詳細は、同窓会のホームページ(<https://www.tsuda-jyuku.org/event/news/9>)で公開中です。



満員御礼のシンポジウム会場



同窓会オリジナルグッズ

小平市立第八小学校での学長講演

7月4日、高橋裕子学長が、小平市立小平第八小学校の第6学年(112名)を対象に、総合的な学習の時間の時間で「津田梅子について」というテーマで講演を行いました。津田梅子の精神と生涯に関する話を中心に講演が行われ、参加した児童からは「津田梅子先生のように留学してみたいくなりました」という意見などが複数あがり、新札発行日の翌日ということもあり盛大な講演会となりました。

この後、小平第八小学校の児童たちは、「小平の魅力伝わる商品開発プロジェクト」の一環で弁当メニューを開発。国分寺マルイに店舗をもつ柿安の協力で商品化されることになり、9月26日には試食会が行われました。高橋学長も参加し、梅子にちなんだメニューなどが映像とともに紹介され、子どもたちの実現に向けた取り組みに、大人たち皆が感心していました。



小平オールスター弁当
左上は津田梅子の「梅」にちなんだ「梅ご飯」



2024年度津田梅子記念会 & ホームカミングデー開催報告

津田塾大学同窓会副会長・学芸学部国際関係学科教授 渡邊 あや

秋晴れに恵まれた10月13日、小平キャンパスにおいて、津田梅子記念会 & ホームカミングデーが開催されました。

午前の部では、守部喜雅氏（クリスチャン新聞編集顧問、元クリスチャン新聞編集長）を奨励者にお招きした津田梅子記念礼拝が、本学 Rosa W.S. Suen 専任講師の司会、吉朝加奈氏（東邦大学准教授）の奏楽のもと執り行われました。続いて行われた第24回高校生エッセー・コンテスト表彰式では、ワンガリ・マータイさんのノーベル平和賞授賞式でのスピーチを踏まえ「持続可能な開発・民主主義・平和」について論じるというテーマに対し、英語作品86編、日本語作品145編が寄せられたことが報告され、最優秀作品の表彰と朗読が行われました。さらに、津田梅子賞贈賞式では、今年度の受賞者である名古屋大学名誉教授森郁恵氏への贈賞と、同氏による受賞記念スピーチが行われました。

午後の部では、理科創設80周年記念シンポジウム「数学科、情報科学科卒業生が語る『変革を担う、女性であること』」が開催され、高橋裕子学長の司会のもと、内海房子氏（津田塾大学同窓会会長、前国立女性教育会館理事長）、松尾亜紀子氏（慶應義塾大学理工学部教授）、ターバーフィールドミシェル潔美氏（アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社）に登壇者にお迎えし、津田塾大学での日々と理工系の分野で築いていらしたその後のキャリアについて、ユーモアを交えつつ、お話しいただきました。

なお当日は、各周年同期会（40年、50年、53年、55年）、理科創設80周年記念懇親会、「切り絵作家CHIKU企画展 切り絵で描く津田塾の四季」、津田梅子資料室企画展「新紙幣発行記念『一新紀元～新しい時代の始まり～』」、津田梅子記念交流館自主フォーラム英語のひろば「Let's 国際交流」、多文化・国際協力学科主催のラウンドテーブル「卒業生とのシンポジウム」なども開催されました。



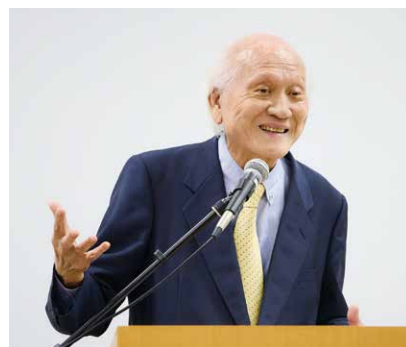
津田梅子記念礼拝 要約「津田梅子 心の旅路」

ペテロの手紙第二 第3章18節（新改訳2017）

奨励者：守部 喜雅 氏（クリスチャン新聞編集顧問、元クリスチャン新聞編集長）

津田梅子は8歳の時に自ら申し出て成人洗礼を受けました。梅子の人生にとって信仰は大きな役割を果たします。いろいろな試練に遭いますがその中で大切にしたいことは教会に集い神を礼拝することでした。梅子は34歳の時に女子教育について自分は何ができるのか等、さまざま悩みながら信仰的にも弱さを抱えていました。この時に英国聖公会のヨーク大主教に出会います。自分で何かをしようとするのではなく、イエス・キリストにならう生き方をしなさいと、大主教は梅子に語りました。本質的な悩みは信仰の深いところのものでした。

梅子の生涯を見て、どうして今日の津田塾大学を建設するまでになったのかと考えます。その生涯は恵みに包まれていたのではないのでしょうか。たくさんの友人に恵まれていました。背後に見えざる神の御手があり、多くの祈りと多くの犠牲がありました。新五千円札発行を機に私たちは、梅子が残した人生は何であったのかを考えたいと思います。



理科創設80周年記念シンポジウム

「数学科、情報科学科卒業生が語る『変革を担う、女性であること』」

2024年度津田梅子記念会 & ホームカミングデー午後のプログラムとして、理科創設80周年記念シンポジウム「数学科、情報科学科卒業生が語る『変革を担う、女性であること』」が行われました。戦時下の1943年理科の新設が許可され、当時の校名「津田英学塾」を「津田塾専門学校」に改め、1943年4月から「数学科」「物理化学科」の両学科で授業が開始されました。2023年が理科創設80周年に当たる年でしたので、今年のホームカミングデーで記念シンポジウムを開催しました。

数学科出身の内海房子氏（津田塾大学同窓会会長 前国立女性教育会館理事長）、松尾亜紀子氏（慶應義塾大学理工学部教授）、情報科学科出身のターバーフィールドミシェル潔美氏（アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社）に登壇し、高橋学長が聞き手となり、卒業後から今に至るまでの歩み、津田塾大学を選んだきっかけ、津田塾大学で学び身についてきたこと、理系女性の人材育成についてなど、お話は多岐にわたりました。

最後に学生へのメッセージをお願いしたところ次のような発言がありました。「どんなことに興味があるか、いろいろ外に出て見つけてください」（ターバーフィールド）「望まなければ何も手に入りません。自分が何を望んでいるかを把握してください。そして自分自身の能力を信じてください。自分の能力を信じてやり遂げましょう。」（松尾）「津田で培った学ぶ習慣、好きを武器に技術革新に立ち向かってください」（内海）



2024年度 津田梅子賞 選考結果報告

2010年、津田塾大学創立110周年を記念して創設した「津田梅子賞」も、今年で14回目を迎えました。本賞は、津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来をひらく可能性への挑戦を顕彰することを目的とします。

選考対象

- 以下の1.または2.に該当する個人/団体で、現代社会に顕著な影響を与えた方
1. 女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織（性別を問いません）
 2. さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性

2024年度は選考の結果、次の方に決定し、10月13日、津田塾大学において贈賞式が執り行われました。



津田梅子賞受賞者 森 郁恵氏（写真中央）、
推薦者 寺崎 一郎氏（写真中央右）と選考委員

受賞者

森 郁恵 氏（名古屋大学名誉教授）

森氏は、1980年4月にお茶の水女子大学理学部生物学科を卒業後、1983年3月に同大学院理学研究科にて修士号を取得。1983年8月に渡米し、Washington University in St. Louisの生物医学系大学院博士課程に進学し、1988年12月に博士号（Ph.D.）を取得。その直後帰国し、九州大学理学部生物学科の助手として、日本の国立大学教員としての研究者キャリアを開始。1998年4月からは、名古屋大学大学院理学研究科生命理学領域（旧専攻）の独立助教授として研究室を主宰、2004年11月に教授に昇格後も、神経科学分野における独創的な研究を継続してきた。2017年4月からは、本学理学研究科に新設されたニューロサイエンス研究センターの初代センター長として

脳神経回路研究の世界拠点を牽引し、女性科学者が主体となった研究を世界に発信した。また、理学研究科の教授として名古屋大学教育研究評議員を務めることで、名古屋大学の執行体制組織に、ニューロサイエンス研究センター長として関わる。森氏は自然科学分野における女性科学者の活躍促進（女性教員割合の増加策と日本初の女性限定公募）、女性科学者の育成（女性トップリーダー育成支援の実施）、女性が主導する世界研究拠点の設置（理学研究科附属ニューロサイエンス研究センターの創設）において顕著な貢献をされた。また、日本社会に米国留学時に学んだ新しい学問を導入して普及させた第一人者として、自身も新しい研究分野を切り拓いている。以上のような森氏の活動は、生物学を専門とし、後進の支援活動に情熱を傾けた津田梅子がめざしていた次世代の育成に共鳴する部分があり、本賞受賞に値すると考える。

●贈賞式でのスピーチ

この度は、津田梅子賞という大変な栄誉をたまわりまして、本当にありがとうございます。私は理系のいち科学者ですので、ご臨席いただいている推薦者の名古屋大学の寺崎一郎理学研究科長を通じて受賞のご連絡をいただいた時は、本当に驚きました。加えて今年は、津田梅子先生が、お札になった年でもあり、格別の喜びを味わう機会をいただきました。関係者のみなさまには、本当に感謝を申し上げます。

私は、1980年にお茶の水女子大学理学部生物学科を卒業し、そのまま、修士課程に進みました。所属研究室では、集団遺伝学という数学的な要素を取り入れて、生物の進化を研究する学問をしていました。当時は、日本の集団遺伝学の研究者の多くがアメリカで博士号を取られていたので、私も自然に、アメリカのセントルイスにあるワシントン大学の大学院に進学しました。

アメリカでは、お茶の水女子大学の時と同じように、ショウジョウバエを使った集団遺伝学を行う研究室に所属するつもりでしたが、大学院のラボローテーション制度を使い、線虫Cエレガンスをモデル生物として使っている研究室に3〜4ヶ月の短期間だけ、滞在することになりました。日本では全く聞きなれない線虫Cエレガンス。「ちょっと違うモデル生物を体験するのも、なにかの役に立つだろう」という軽い気持ちでした。

ところが、一ヶ月も経たないうちに、線虫のモデル生物としての将来性に、魅了されてしまいました。遺伝学研究に有利な利点を、たくさん持つ線虫を使えば、将来、今までとは違う生物学が、きっとできるだろうと私なりに確信し、そのまま、線虫の研究室に留まることにしました。線虫のコミュニティには、知り合いが誰もいませんでした。逆に言えば、いっさいのしがらみもありません。自分でも不思議なくらいに、本当に、すがすがしい気持ちで、毎日、楽しく研究して、論文を書きました。

線虫の研究室で5年間を費やして博士号を取得しました。運よく九州大学の助手として採用していただきました。ただ、当時の私は、英語でものを考えるようになっていたので、日本の文化に大きなカルチャーショックを受けました。さらに「日本の女性科学者全体の地位が向上しなければ、わたし自身が科学者として、日本で活かされることはないだろう」という思いに至りました。

名古屋大学で研究室を主宰するようになってからは、女性研究者、特に若手女性の活躍促進に関する活動を行いました。私は男女共同参画に関連する役職に就いたことがありませんので、自分なりに、地道に活動しました。

もしそれが、今回の津田梅子賞の受賞につながったのであれば、この上なく、嬉しく存じます。

最後に、ひとつ、申し上げたいことがあります。「何もないところに道を作る」。つまり、「ゼロからイチを作る」パイオニアは、一見、賞賛されているようでいて、意外に、

特に日本では、評価されていません。若い方々にわかっていただきたいのは、ご自分たちが活躍できていることは、パイオニアの先人達のあくなき努力が築き上げた土台があるからこそである、ということです。

物理学者の寺田寅彦先生の「科学者とあたたま」という随想の中に、私の好きな言葉があります。この随想で、一番よく知られているのは、「けがを恐れる人は大工にはなれない。失敗をこわがる人は科学者にはなれない」という言葉ですが、わたしが一番感動するのは、その次に出てくる「科学もやはり頭の悪い命知らずの死骸の山の上に築かれた殿堂であり、血の川のほとりに咲いた花園である」というくだりです。

ノーベル賞を取る科学者が出る前には、ほぼ必ず、地味な研究成果が多数発表されています。これらの研究成果を出した研究者たちは、一生、その功績を、学術賞の受賞という形で讃えられることはないかもしれません。しかしながら、これらの研究成果がないと、ノーベル賞を受賞する科学者が生まれてこないことも事実なのです。

つまり、パイオニアの努力は、形あるものとして、社会に足跡（そくせき）を残さないことも多いのです。だからと言って、これらの先人たちの尽力なくして、科学は、進歩しませんし、社会は、変革していきません。名もなきパイオニアに礼を尽くし、畏敬の念を抱くことを、決して忘れてはいけません。わたしはそう思っています。

若いみなさまも、目先の評価にとらわれず、地に足がついたことを着々とおやりになり、どんな形であれ、社会の一員として社会に貢献していただきたいと、心より、切にお願い申し上げます。

この度は、本当にありがとうございました。



第24回 高校生エッセー・コンテスト 結果発表

10月13日、津田梅子記念会&ホームカミングデーにおいて第24回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表会が執り行われました。当日は最優秀の米津凜奈さんが受賞作品を朗読しました。

応募作品231編(内訳:英語作品86編、日本語作品145編)

選考の結果、次の方々が最優秀賞・優秀賞に選ばれました。(アルファベット順)

■最優秀賞(1名)	米津 凜奈さん	桃山学院高等学校(大阪府)	1年生(日本語)
■優秀賞(4名)	駒野 暖さん	遺愛女子高等学校(北海道)	2年生(日本語)
	野口 なゆみさん	頌栄女子学院高等学校(東京都)	1年生(英語)
	櫻井 海斗さん	神戸大学附属中等教育学校(兵庫県)	2年生(英語)
	清水 知佳さん	女子学院高等学校(東京都)	1年生(日本語)



最優秀作品

桃山学院高等学校1年生 米津 凜奈さん

私が小学3年生のとき、理科の授業で、学年全員でたくさんのモンシロチョウの卵を育てて、幼虫から羽化させ、その成長過程を観察するという授業を受けたことがあります。初めてのうちは、「いもむしが気持ち悪い!」と言って、観察すること自体を拒否する人がいたり、必要以上に幼虫に触って遊んでいる人がいたり、授業どころではありませんでした。

しかし、時間が経つにつれて、多くの人が真剣に授業に向き合うようになっていきました。しだいに、他の学年の人たちや大勢の先生が、幼虫を見るために教室に来るようになり、学校全体で飼育することになりました。クラスの人たち、同じ学年の人たち、他の学年の人たち、大勢の先生たちと一緒に協力し、毎日必死になってお世話をしていました。

しばらくしてから、1匹が幼虫からさなぎへと成長しました。その後も、たくさんの幼虫がさなぎになり、やがて成虫のモンシロチョウへと成長していきました。最後の1匹が成虫になり、飛び立っていったあとに、理科の先生がこう言いました。

「すべての幼虫が、おとなのモンシロチョウへと成長しましたね。みなさんが真剣に、モンシロチョウと向き合ってくれたおかげで、モンシロチョウの観察だけではなく、命の大切さも学ぶことができましたね」と。

私は、このときの先生の言葉が、当時の私の心にとっても深く響いたことをよく

覚えています。初めは理科の授業の一環で、「みんなでモンシロチョウを育てて、成長過程を観察する」という目標でしたが、他の学年の人たちや大勢の先生たちと、毎日必死になりながら、一緒に育てたことで、「命に対する責任の重さ、大切さ」に気づくという、初めの時点では目標ではなかった、別の大きな事柄も達成することができました。

マータイさんのグリーンベルト運動についての文章を読んだとき、私はこの体験を思い出しました。起こっていることの規模の大きさは違っても、本質は同じだと思ったからです。

グリーンベルト運動では、植樹をしていくことによって、大勢の一般市民が動員され、民主的な権利を守るために、変化をもたらそうと行動を起こしていきました。そして、グリーンベルト運動の当初からの目標であった、「子どもたちの教育と家庭のニーズのサポートのために、燃料、食料、避難所、収入を提供する」ということに加えて、女性の社会的および経済的地位についての権力の獲得という、大きな事柄も達成しました。

私は、どんな小さなことでも一生懸命に続けると、周りの人たちと一体となり、初めのうちには見えていなかった、大きな事柄も達成することができると考えています。大きなことは高校生だからできないと言って諦めず、小さいことから始めていくことが大切で、マータイさんの言っていた「若者のエネルギーと創造力」につながっていくと思います。

●講評

2024年度高校生エッセー・コンテスト審査委員長・ライティングセンター長(学芸学部英語英文学教授) 吉田 真理子

高校生エッセー・コンテストは、津田塾大学創立100周年を記念して2000年に始まり、今年で24回目を迎えました。英語の課題文を読み、日本語が英語のどちらかを選んでエッセーを書くというのが特色となっています。

今年の課題文は、ケニアの活動家であるワンガリ・マータイさん(1940-2011)が2004年、アフリカ人女性で初めてノーベル平和賞を受賞したときのスピーチでした。日本語の「MOTTAINAI」を環境を守る世界共通語として広めることを提唱したことで知られるマータイさんは、アフリカ各地に5000万本以上の植林を進めた「グリーンベルト運動」の創始者です。スピーチでは、アフリカの砂漠化や干ばつといった環境問題が貧困や紛争とも関連していること、持続可能な開発こそが貧困撲滅や女性の地位向上、民主化や平和にもつながることを訴えています。マータイさんのスピーチから、ちょうど20年となる現在、残念ながら地球環境問題はより深刻さを増し、民主主義や平和を揺るがす出来事はいまも世界各地で起きています。

今回のコンテストのテーマは「持続可能な開発・民主主義・平和～高校生の私が考えること～」でした。高校生として「自分自身の問題や経験に引き寄せながら」エッセーを書くというのはなかなかチャレンジングであったと思いますが、マータイさんのメッセージの意味することを懸命に考え、自身の体験に引き寄せ、自

分のことばでしっかりと表現した作品が評価されました。

231編の応募作のなかから最優秀賞に選ばれたのは、米津凜奈さんの作品です。マータイさんのスピーチを読むことで、自身が小学3年のとき理科の授業の一環として取り組んだ「モンシロチョウの卵を育てる」という課題が、次第に命に対する責任をもつという大きな目標達成へとつながったことを思い起こし、「どんな小さなことでも一生懸命に続けると、周りの人たちと一体となり、初めのうちには見えていなかった大きな事柄も達成することができる」という気づきを得ています。命を育てるという自身の身近な経験とマータイさんの活動との本質的なつながりに着目したエッセーの構成力、表現力が高く評価されました。

優秀賞に選ばれたのは、駒野暖さん、清水知佳さん、野口なゆみさん、櫻井海斗さんの4つの作品でした。日本語のエッセーでは、身内の方のケアに関して声を上げアクションを起こしているご自身の経験、小さい頃から森や生き物に親しんできた身近な経験、をとおしてマータイさんの活動を考える日本語での論の展開が評価されました。英語のエッセーでは、エッセーの最後にマータイさんのことばで締めくくる論の展開、自身の主張を英語で読み手に届かせる説得力のある表現と構成、が評価されました。

マータイさんはスピーチで、若い人たちに期待を寄せています。

"To the young people I say, you are a gift to your communities and indeed the world. You are our hope and our future."

このたびの受賞を機に、これからも持続可能な未来をつくっていく努力を続けていってください。

第7回エッセーコンテストJr.受賞者発表

英語英文学科にて小・中学生を対象とした「第7回エッセーコンテストJr.」を開催しました。今年は『アンネ・フランクに学ぶこと』というテーマで、考えたことを自由に書いてもらいました。国内外から日本語、英語での応募があり、Jr.大賞1名、Jr.奨励賞4名が選ばれました。

受賞者に賞状・副賞と記念品(同学科助教・伊藤千晴先生が撮影した小平キャンパスの写真カレンダー)、そして参加者全員に記念品を、メッセージを添えて贈呈しました。

受賞者は、右記の方々です。おめでとうございます。

■Jr.大賞

植村 耀さん Cardigan Mountain School G9

■Jr.奨励賞

杉山 碧泉さん 慶應義塾湘南藤沢中等部 1年

塚本 愛子さん 浦安市立浦安中学校 1年

植村 葵さん 大阪市立真田山小学校 4年

ウィンクラー セシリーさん 市川中学校 1年

(アルファベット順)

大山捨松賞の授与

2024年8月1日、大山捨松賞の授与式が開催され、大山捨松のひ孫である久野明子氏をお招きし、受賞者へ激励のお言葉をいただきました。

この賞は、大山捨松が津田梅子とともに日本初の女子留学生として渡米し、初めて海外の大学で学位を取得した女性であることにちなみ、本学で優秀な成績を修め、学位取得のために海外大学院へ進学する学生に授与されます。

なお、卒業時には進学先は決定していないため、進学先が確認された学生に対し、卒業翌年度に授与されます^(※1)。

2024年度の受賞者は、次の2名となりました。



■2024年度受賞者^(※2) 2023年度情報科学学科卒業 **小林 かさね** さん 2023年度総合政策学科卒業 **大島 碧生** さん

※1 受賞者へは賞状と、副賞として金10万円が送られます。 ※2 氏名は常用漢字にて表記

2024年度 梅子スカラシップ（学業）受給者発表

梅子スカラシップ（学業）は2年生以上を対象とした給付奨学金です。各学科から推薦された学業・人物優秀者を対象に全学学生委員会で選考されます。受賞者は28名となりました。2024年度の授与式は、9月25日に小平キャンパスと千駄ヶ谷キャンパスにて対面で行われ、会場では小平キャンパスは高橋学長より、千駄ヶ谷キャンパスは奥脇副学長から受給者へ証書が授与されました。

受給者は次のとおりです（敬称略、順不同）。



▲授与式(小平キャンパス)

学芸学部						総合政策学部					
英語英文学科		国際関係学科		数学科		情報科学科		多文化・国際協力学科		総合政策学科	
学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
2	高橋 温子	2	曾我部 小春	2	寺内 風花	2	佐藤 舞	3	近藤 れの	2	井出 陽菜
2	川田 花	2	清水 ゆり	3	小泉 怜子	3	竹川 由佳	4	高井 美緒	3	藤原 唯愛
3	安部 奏美	3	大里 優月				他 1名		他 1名	3	大道 桃子
3	岡見 穂香	3	佐々木 ころこ							4	山田 佳奈
4	森下 葵	3	中川 順香								
4	原田 真衣奈	4	宮下 青生								
4	須田 朋愛	4	吉田 明華								
4	山下 紗葵	4	滝川 優里奈								



▲授与式(千駄ヶ谷キャンパス)

受賞おめでとうございます

●情報処理学会エンタテインメント
コンピューティング研究会(EC研究会)
第71回研究発表会 研究奨励賞(銀賞)
学芸学部 情報科学学科 4年 **小林 かさね**
学芸学部 情報科学学科 4年 **有吉 由真**
(いずれも2023年度卒業生で、学年は発表当時のもの)

●第3回計算社会科学会大会(CSSJ2024)石井晃賞(学生賞)、構造計画研究所特別賞(スポンサー賞)受賞
●情報処理学会第86回全国大会 全国大会学生奨励賞を受賞
総合政策学科 4年 **江連 千佳** (2023年度卒業生で、学年は発表当時のもの)
●情報処理学会エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2024 一般セッション優秀賞
理学研究科情報科学専攻修士課程 2年 **丸山 礼華**
理学研究科情報科学専攻修士課程 2年 **神戸 理帆**

優良教育賞受賞者発表

本学では、全学SD・FD委員会を設置し、教員の教育力向上を目指したFD活動を行っています。その一環として、「授業評価に基づく教育業績の表彰に関する規程」に則り、「優良教育賞」を2015年より授与してまいりました。「優良教育賞」は、受講者数や授業形態等の条件に基づき、前年度の学生による授業評価アンケートにおいて、いくつかの質問事項に対する学生からの評価が高かった科目の担当教員を対象として、学長が表彰するものです。今年度は、下記6名に授与されました。



「English III
(Australian Studies) (4)」
第4ターム
Chris Burgess先生



「Oral Communication」
第1・3・4ターム
Soo-Hye Han先生



「先住民論」
第1ターム
上村 英明先生



「数学序論(演習付)」
第1ターム
久野 雄介先生
宮澤 治子先生



「企業の社会的責任」
第1ターム
舘 健太郎先生

ラフティング部世界大会

●U23女子代表 小林 志絵利（国際関係学科2年）

私たちラフティング部ストローム会の女子チーム Ivy はボスニア・ヘルツェゴビナで開催されたラフティング世界選手権にてU23女子部門総合優勝しました。

レースラフティングとはゴムボートで河川の激流を降りタイムを競う競技で、4～6人1チームで行われ、一人ひとりが大きな役割を担う団結力が重要なチームスポーツです。世界大会出場が決まってからはより気を引き締めて練習を行いました。国内の大会や授業との両立で忙しかったのですが、そのような環境でも世界一という成績を残せたことは大きな自信に繋がりました。危険を伴うことも多いスポーツですが綿密な作戦を練り巨大な波を超えて勝った時の達成感は何ものにも代え難いです。

他国の選手と、ライバルでありながらお互いにリスペクトを示した現地での交流は貴重な経験でした。この大会を通じた経験は私の人生において大きな一歩となりました。部員や家族をはじめとする応援してくださった方々、大会関係者、そして何より最後まで諦めず一緒に優勝を掴んだメンバーに心から感謝しています。

●オープン女子代表 林 かりん（多文化・国際協力学科4年）

「絶対に世界大会に行きたい」と誓って入部してから3年、大学4年生の私はついに夢の舞台に立つことができました。コロナの影響で世界大会が延期され、選考会すら開催されないこともありましたが、諦めかけたこともありましたが、一緒に世界で戦いたかった先輩たちともチームを組むことすらできませんでした。粘り強く練習を重ね、仲間や家族、川に関わる多くの方々の支えを受け、オープン女子日本代表として世界大会に出場する機会を得ました。ボスニアでの一瞬一瞬はかけがえのないもので、「私はこのために努力してきたんだ」と心から感じました。競技別で1位や2位を獲得し、総合2位という結果を収めたことは恩返しになったと思っています。挑戦は続きます。世界の仲間たちと次の大会で再び戦えるよう、更なる成長を目指したいです。



Ivyメンバー

英語英文学科3年	近藤 みずき
国際関係学科3年	若山 佳奈芽
英語英文学科2年	池森 陽菜
国際関係学科2年	小林 志絵利

第65回津田塾祭を開催しました

第65回津田塾祭は、2024年10月19日、20日に開催されました。当日は小さなお子様から高齢の方まで多くのみなさまに来ていただくことができました。特に外部アーティストや参加団体による中庭ステージはどれも盛り上がりを見せました。また、小さなお子様楽しめる縁日企画や、さまざまな食べ物や雑貨を販売するマルシェ企画も実施し、来場された多くの方に楽しんでいただくことができました。

●第65回津田塾祭によせて

第65回津田塾祭実行委員会委員長 国際関係学科2年 勝見 真有

第65回津田塾祭にお越しいただき、誠にありがとうございました。開催に際し、大学関係者のみなさま、同窓会のみなさまをはじめ、多くの方々にご支援を賜りました。ご尽力いただきました全てのみなさまに、委員を代表して厚く御礼申し上げます。

今年度は他大学との交流や外部イベント参加など、津田塾祭をもっと多くの方に知っていただけるような活動に力を注いで参りました。開催までにさまざまな困難もありましたが、教職員のみなさまに支えていただき、当日まで諦めずに頑張り続けることができました。心より感謝申し上げます。来年度も、多くの方にご来場いただけるよう委員一同、精一杯取り組んで参ります。

末筆にはなりますが、今後とも津田塾祭へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



お茶の水女子大学との単位互換に係わる覚書の締結について

津田塾大学とお茶の水女子大学との間で、国際協力・開発途上国・SDGs（持続可能な開発目標）に関する科目の単位互換に係わる覚書が今年6月に締結されました。

この覚書は、津田塾大学、お茶の水女子大学、東京女子大学、日本女子大学、奈良女子大学の間で2002年に締結された、開発途上国の女子教育支援や女子教育の発展を目的とした事業を行うための協定「五女子大学コンソーシアム協定」に基づくものです。

今年度後期からのお茶の水女子大学への派遣に対しては、5名から延べ7科目の受講申請がありました。

高大連携協定の締結について

本学は、2024年9月5日に共立女子第二中学校高等学校（東京都八王子市）、11月7日に星野高等学校（埼玉県川越市）と高大連携協定を締結しました。

本締結は、オールラウンドな女性の育成を目指す教育における双方の発展を促進するために、大学と高校が包括的な連携に基づき協力して事業を運営することを目的としています。



協定書に署名

山根記念ギャラリー企画展「切り絵で描く津田塾の四季」 (津田塾大学創立125周年記念/津田梅子生誕160年記念事業)

本学卒業生で切り絵作家CHIKUさん(種村千明、2000年国際関係学科卒)の企画展「切り絵で描く津田塾の四季」を10月10日より11月8日まで津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーで開催しました。CHIKUさんは本学の広報誌『Tsuda Today』の表紙、津田塾大学の公式グッズ等、数多くの原画制作を手がけています。それらの作品の他、ご自身のアートワーク作品を制作にまつわるエピソードと共に展示をしました。

開催期間がホームカミングデーや津田塾祭と重なったこともあり、卒業生や在学生の保護者など、これまで『Tsuda Today』の表紙やグッズでCHIKUさんの作品に親しんでいた多くの方々が、実際の作品を見たいと来訪しました。また、多摩地域のタウン誌で大きく紹介されたこともあり、多数の一般の方々の来場もありました。休日の開館日にはCHIKUさん本人が在館し、来場者に直接作品について説明し、感想をうかがう機会がありました。ある卒業生からは、「切り絵のグリーティングカードが大学から送られてきて、津田塾を受験したいと思った」また、他の来場者からは「作品の繊細さに驚かされた」との声が寄せられました。会場では作品をモチーフとしたグッズの販売も行われ、多くの方が買い求められる様子から人気の高さがうかがえました。



津田梅子資料室企画展 新紙幣発行記念「一新紀元～新しい時代の始まり～」 〈会期〉2024年10月13日(日)～2025年9月30日(火)

2024年7月、20年ぶりに新しいお札が発行されました。新五千円札の肖像には、樋口一葉に続いて津田梅子選ばれました。新しい20年の始まりです。

「一新紀元」(いちしんきげん) = 「ものごとが新しく変わった最初の年」(日本国語大辞典)

1882年11月、梅子は長い留学から帰国しました。横浜港に入る直前の手紙で

「Tomorrow turns a new page in my life. May it be a good one.」

という希望に満ちた言葉を書きのこしています。その気持ちそのままを表したような柔らかな笑顔が印象的な写真「帰朝後、18歳頃」のほか、紙幣肖像の参考となった写真類、紙幣のデザイン画(コンテ画)など、新紙幣に関するさまざまな資料を、新しい20年の始まりを記念して展示いたします。



寄贈資料紹介

銀のコーヒースプーン“梅印”

2024年夏。またひとつ、津田梅子に縁のある資料が寄贈されました。津田梅子の妹・安孫子余奈子の遺品のひとつである、銀のコーヒースプーンのセットです。安孫子余奈子の子孫である Mrs.Elizabeth Gibson からご寄贈いただきました。

余奈子が書き添えたメモによると、このセットはアリス・ベーコンが日本滞在中に親友・大山捨松へのクリスマスプレゼントとして買い求めたものでした。その後、捨松の形見として梅子に受け継がれ、そして余奈子が姉の形見として受け取ったようです。

このスプーンのセットは、10月13日より常設展「津田梅子の生涯」にて展示しております。小さい梅の意匠が施された愛らしい一品をぜひ、ご覧ください。



津田梅子資料室

ようこそ津田塾大学へ（留学生紹介）

2024年9月に12名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。
みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

●CYセルジー・パリ大学（フランス）

COJEAN AXELLE（コジャン アクセル）/多文化・国際協力量科

OZTEPE YELIZ（オズテペ イェリス）/多文化・国際協力量科

●ロンドン大学SOAS（イギリス）

MILLER JESSICA CLAIRE（ミラー ジェシカ クレア）/英語英文学科

VALDES CAICEDO GLORIA STEPHANIE

（バルデス カイセド グローリア ステファニ）/英語英文学科

●ブレーメン応用科学大学（ドイツ）

CAKICI ZERIN（チャクジュ ゼーリン）/国際関係学科

●ハインリッヒハイネ大学 デュッセルドルフ（ドイツ）

UTSUNOMIYA ENYA SCARLETT HIMARI

（ウツノミヤ エニヤ スカーレット ヒマリ）/多文化・国際協力量科

●ウエスタンワシントン大学（アメリカ）

HARRELL SAMANTHA GINGER

（ハーロー サマンサ ジンジャー）/国際関係学科

●ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）

CHU QUYNH ANH（チュ クイン アイン）/多文化・国際協力量科

NGUYEN THI NHAT MINH

（グエンティ ニャット ミン）/多文化・国際協力量科

●国民大学（韓国）

HONG JIWOO（ホン ジウ）/国際関係学科

JEON SOYEONG（チョン ソヨン）/国際関係学科

●梨花女子大学（韓国）

KIM HYEJIN（キム ヘジン）/国際関係学科

（大学別）

よろしくお願いいたします。



高校生フィールドワーク・コンテスト2024 審査結果

2024年8月31日に学芸学部多文化・国際協力量科主催の高校生フィールドワーク・コンテスト2024を開催いたしました。

最優秀賞には、栃木県立矢板東高等学校3年の河野 晶さん（「矢板宿」の変遷にみる地域商業の在り方 ―「屋号」に着目して―）が選ばれました。

講評等の詳細は、右記QRコードよりご確認ください。



新任教員紹介

（7月1日付）



情報科学科

助教 永並 健吾

いくつかの点が線で結ばれたネットワーク状の図形を扱う「グラフ理論」の研究を専門としています。

特に、曲面上に描かれたグラフの構造解析に取り組んできました。

授業では、学生たちの学びをつなげ、成長をサポートできる存在でありたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

新任職員紹介

（9月1日付）

特任職員（コーディネーター）

ウェルネス・センター事務局

インクルーシブ教育支援室

曾我 有可

このたびインクルーシブ教育支援室コーディネーターとして着任しました曾我です。

現在まで障害学生の支援には約10年近く携わってきました。

今後もこの経験で得られたスキルを活かし、障害のある学生の成長を支え、彼らが大学や社会の一員として自己実現できるよう環境作り、多様性を尊重する教育環境の実現に貢献したいと思います。

（10月1日付）

事務局付（管理課業務担当）

長島 藍

前職と同じく大学職員として、財務課と教務課で勤務しておりました。

この度、ご縁あって本学で勤務する運びとなり、大変うれしく思います。管理課の一員として、歴史ある施設の保全と、益々の発展に尽力いたします。

新たな気持ちで精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局付（総務課業務担当）

中路 健太

前職では全く異なる業界（臨床開発職）で10年ほど従事しておりました。今後は職員として新たな視点を取り入れながら、業務に取り組んでまいります。新しい環境でも学び続ける姿勢を大切にし、みなさまと協力しながら大学の発展に貢献できるよう努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

理事会・評議員会開催報告

第331回理事会

2024年5月17日

【審議事項】

1. 寄附行為変更に関する件

第332回理事会

2024年5月31日

【審議事項】

1. 2023(令和5)年度事業報告に関する件
2. 2023(令和5)年度決算(案)に関する件
3. 役員賠償責任保険の更新に関する件
4. 千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社役員の選任に関する件

【協議事項】

1. 創立125周年記念事業募金趣意書(案)について

【報告事項】

1. 2023年度及び2024年度公的研究費の管理件数について

2. 2023年度卒業生の進路について
3. 創立120周年記念事業募金報告について
4. その他

第204回評議員会

2024年5月31日

【審議事項】

1. 寄附行為変更に関する件

【報告事項】

1. 第2期中期計画について
2. 2023(令和5)年度事業報告について
3. 2023(令和5)年度決算(案)について
4. 役員賠償責任保険の更新について
5. 学費改定について
6. 認証評価申請及び実地調査について
7. 新学部設置準備について
8. 創立120周年記念事業募金の結果について
9. 創立125周年記念事業募金について
10. 2023年度卒業生の進路について

11. 2023年度入試志願者状況と入学者数について
12. その他

第333回理事会

2024年6月28日

【審議事項】

1. ウェルネス棟(仮称)の建築における業者に関する件
2. 新寮建設に関する件

【報告事項】

1. 2024年度監事監査計画について
2. 在学生向け学費改定説明会について
3. 令和6年度大学・高専機能強化支援事業の選定結果及び交付内定について
4. その他

第334回理事会

2024年7月29日

【審議事項】

1. 理事選任に関する件

寄付者ご芳名 (2024年5月1日から2024年8月31日現在 掲載承諾者のみ)

サポート<津田スピリット>募金 創立125周年記念事業募金

尾崎 哲 様 宮本 郁子 様
長能 宏子 様 山本 真之 様
野村 孝子 様 匿名 4名
三雲 瑛子 様

サポート<津田スピリット>募金
新型コロナウイルス感染拡大に伴う
緊急募金として
匿名 1名

サポート<津田スピリット>募金

●学修環境整備(キャンパス連携)
伊藤 実佐子 様
●学修環境整備(小平キャンパス)
岩淵 陽子 様
岡 真美恵 様
曾我 佐保子 様
玉木 瑞枝 様
匿名 2名

●学生支援(学外学修・海外活動)
片野 弓子 様
●学生支援(留学生派遣)
長谷川 璃沙 様
●津田塾大学 教育振興資金
江本 一恵 様
新本 章子 様
萩谷 友紀 様
匿名 1名

●その他
清水 響子 様
中村 うらら 様
匿名 1名

2025年度 一般選抜情報

一般選抜	入試制度		学 科	募集人員	出願期間	入学試験	合格発表	入学手続締切	
	A方式	(学)英語英文学科		75	2025年 1/4(土)～1/23(木)	2/5(水)	2/16(日)	2/21(金)	延納の場合の 最終手続締切日 3/25(火)
		(学)多文化・国際協力学科		40					
		(学)数学科		23					
		(学)情報科学科		22					
		(学)国際関係学科		85					
	(総)総合政策学科		35						
	A方式 (英語外部試験 利用型)	(学)英語英文学科		10		2/5(水)			
		(学)多文化・国際協力学科		5					
		(学)数学科		2					
		(学)情報科学科		3					
		(学)国際関係学科		10					
		(総)総合政策学科		5					
	B方式	(学)英語英文学科		20	2025年 1/4(土)～2/18(火)	2/28(金)	3/8(土)	3/14(金)	
		(学)国際関係学科		20					
		(学)多文化・国際協力学科		10					
		(学)数学科		5					
		(学)情報科学科		5					
	C方式 (前期)	(学)英語英文学科	3教科型	15	2025年 1/4(土)～1/17(金)	共通テスト 1/18(土) ・ 1/19(日)	2/16(日)	2/21(金)	
			4教科型	15					
(学)国際関係学科			3教科型	15					
			4教科型	15					
(学)多文化・国際協力学科			5						
(学)数学科			5						
(学)情報科学科			10						
(総)総合政策学科		3教科型	10						
C方式 (後期)	(学)英語英文学科	5科目型	5	2025年 1/20(月)～3/8(土)		3/18(火)	3/25(火)		
	(総)総合政策学科	4教科型	10						
		2教科型	10						

(注) 出願期間及び入学手続締切日に(必着)の添書きがない場合は、締切日当日の(消印有効)です。

(注) 学芸学部は(学)、総合政策学部は(総)と表示しています。



お知らせ

保証人のみなさまへの 成績公開について

2024年7月より、学内関係者向けポータルサイト「TsudaNet」が新しくなりました。

これに伴い、本学学生の「成績」を、保証人のみなさまがこのポータルサイトでご確認いただけるように準備を進めております。

これまでは年度末に郵送で成績通知書を保証人様住所宛にお送りさせていただいておりましたが、ポータルサイトにアクセスすることで確認できるようになります。

導入時期等、詳細については、改めて今後のTsuda Todayでお知らせいたします。

多文化・国際協力学科三澤健宏先生 最終講義のご案内

- テーマ：「ラテンアメリカで人口研究を学ぶことの意義とは？」
- 日時：2025年1月22日(水)3限 13:00～14:30
- 場所：小平キャンパス1号館 1111教室
対面・オンライン併用のハイブリッド
- お申込み：事前のお申し込みは不要です。オンライン配信の詳細は後日大学Webサイトに掲載します。

在学生・卒業生問わず、ぜひご出席ください。

冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

本講座では4日間にわたり4人の先生方に、英語教育に関わる方々に向けて、ご自分の実践されてきたご指導、ご提案などについてお話いただきます。詳細は大学公式Webサイトをご覧ください。

冬期公開講座「明日の授業に活かせる英語指導の理論と実践」

- 日時：2024年12月24日(火)、25日(水)、26日(木)、28日(土) 各日とも 10:30～12:00
- 講師：24日(火) 執行 智子先生（白梅学園大学）
25日(水) 吉住 香織先生（立教大学）
26日(木) Jonathan Picken 先生（津田塾大学名誉教授）
28日(土) 本多 敏幸先生（都留文科大学）
- 開催形式：オンライン（Zoom）
- 定員：60名
- 受講料：各回 2,500円（本学学部生 1,000円）、全日程申込の場合は7,500円。
本学専任教員・非常勤講師、本学大学院生の受講料は無料。いずれも要事前申込。
- 申込方法：Google フォームまたはQRコードからお申し込みください。
- 申込締切：2024年12月13日(金)
- お問い合わせ：文学研究科英語教育実践研究担当 E-mail：e-info@tsuda.ac.jp

【Google フォーム】
<https://forms.gle/3pWyQxfAsxhzr8YU6>



クリスマス礼拝

2024年度は、対面形式にて下記の通り実施いたします。奨励者の工藤篤子様より、メッセージと共に、クリスマスにあわせた歌をお届けいたします。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

- 日時：2024年12月11日(水) 14:40～16:00
- 場所：津田梅子記念交流館 岡島記念チャペル
- 奨励者：工藤 篤子氏
(伝道師、工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ代表)
- メッセージ：「悲しみには喜びを、憂いには賛美を」
- お問い合わせ：総務課 E-mail：soumu@tsuda.ac.jp

交流館プログラム 「クリスマスコンサート2024」

詳細は交流館Webサイトをご覧ください。

- 日時：2024年12月18日(水) 14:00～15:30
 - 参加費：無料（申込要）
 - 場所：津田梅子記念交流館 岡島記念チャペル
 - お申込み方法：【お申込フォーム】
<https://koryukan.tsuda.ac.jp/forum/apply/>
 - お問い合わせ：経営企画課
TEL：042-342-5146
- ※定員を超えた場合は抽選になります。



●表紙への想い●

夢に向かって CHIKU

津田梅子生誕160周年を記念し、題名は津田梅子研究の第一人者、高橋裕子学長に命名いただきました。朝焼けの海を、津田梅子、永井繁子、山川捨松の3人が漕ぐ舟が、太陽の虹のゲートに向かって進んでいきます。



Tsuda Today No.132

発行日 ● 2024年11月29日

発行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課

Tel. 042-342-5113

〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

<https://www.tsuda.ac.jp/>

表紙切り絵 ● CHIKU

(種村千明・2000年卒)